

経営課題

経営多角化に伴い分散する経理業務の効率化



課題解決策

オフコンのリースによる業務改革・人事改革



ITによる課題解決策

基幹系へのIT活用
財務会計

代表取締役 小山典久社長



代表者：小山典久
 本社所在地：鳥取県米子市蚊屋
 235-2
 売上高：18.7億円
 従業員：133名
 創業：1961年

【今やる、すぐやる、先に延ばさない】

鳥取県米子市で土木・建設・砕石販売・温浴事業・王子製紙米子工場のボイラー燃料スラグのリサイクル砕石化等、地球環境にも配慮をした経営の多角化を実施中です。

分散した経理業務とオフコンのリース切れが近い

社長の困りごと・想い

1. 砕石の販売管理及びそれに付随した他の事務処理の業務改善を行いたい。
2. 経営判断として必要なデータを得るのに迅速さが求められるが時間がかかっている。このタイムラグを埋めたい。
3. 経理業務に関する経理ソフトの更新時期に来ている。

きっかけは？

1. 多角化による業務と場所の分散、及びそれに伴う経理人員の適正人数把握が不明化である。
2. 経理で使っているオフコンのリース切れが近い。
3. 砕石販売業務は山中の業務であり、手作業と入力事務の二重化が発生していた。
4. 産業廃棄物処理に伴うマニフェスト作成業務の簡素化をしたい。
5. 当社にふさわしい最適な経理人員の把握とそれに伴う経営数値把握のスピードアップ化を図りたい。

こうして解決した

1. ITコーディネータと一緒に当社の課題解決のプロジェクトチームを結成した。
2. 部門別の業務フローを作成した。そして各種業務フローの検討と問題点の抽出を行った。その後、経理システムを入れ替え、かつ産業廃棄物処理のマニフェスト処理を一括して行なうシステムを構築するための提案要求仕様を作成した。同時にシステム提案時の評価尺度としての評価基準書も作成した。
3. ベンダーを集めて説明会を実施した。その後ベンダーからの構築システム提案を受け評価基準で評価し、当社の実施すべき一番ふさわしいシステム提案会社と契約を結びシステムを導入した。

【成果】

経理人員の減少、休日出勤の皆無、従業員の意識改革へと連動した。

社長の一言

作業の二度手間を省き合理化に繋がると共に、従業員の意識改革と人材活用に繋がった。地方の建設業が元気のない時期に、IT経営実践企業を受賞して大変嬉しく思っている。

経営者の気づき
フェーズ事例経営戦略
フェーズ事例IT戦略策定
フェーズ事例IT資源調達
フェーズ事例IT導入
フェーズ事例ITサービス活用
フェーズ事例

こうして経営課題を解決した

オフコンのリプレイスとネットワーク構築による碎石販売の合理化

経理業務に関するオフコンの経理ソフトの更新時期が来たため、低コストで高い業務効率の図れるソフトとハードの導入を検討した。また、碎石業の碎石販売単価の低下及び、土木事業の減少及び他の碎石業者との競争激化の中で、碎石業務の利益確保を図るためにはこの業務のコストを見直した。本社から遠く離れた山中で販売する碎石の売上管理は現場と本社で管理ラグが発生していたが、現場と本社を通信回線で結ぶことにより解決した。経営多角化による各業務フローを検討してみると社内各所で二重入力をする事態が発生していたが、建設業でのパッケージソフトを導入すると同時に、自社単独業務への適応部分はカスタマイズ化により解決した。

課題解決のポイント

◆ビジネスをダイナミックに動かすのは人

1. 当社の問題点として全ての物事がダイナミックに動くことを拒否している部分があったが、会社は人材、モノ、資金で構成される。
2. 中心をなす人の考え方が変化しなければ会社をいつまでも停滞させることになる。システムを切り替えることでその意識を改革する大きなチャンスを求めることができた。
3. システム切替により適宜な人員で処理できる体制が構築できた。これにより能力のある人材の配置転換が可能になり、人的資源を失うことなく多角化された職場で活用できている。

◆オフコンからパソコンベースへ

1. 本社から遠く離れた山の中にある碎石工場の販売所と本社とをインターネット回線により直結しデータを迅速に管理することとした。
2. データの発生時点と販売管理と一連の業務をコンピュータ管理し、煩雑な事務処理の効率化が実現できた。
3. 経理ソフトは従前のソフト以上の能力を有したものを導入し、オフコンベースから割安なパソコンソフト（パッケージ）を選択した。これにより経理への人的投資を最小限の人数に抑えながら、従前の業務を抜本的に改革し効率化が図れた。

IT活用成功のポイント

1. まず現状業務ごとの業務フロー（経理業務フロー、土木業務フロー、温浴施設業務フロー、碎石事業業務フロー、産業廃棄物処理業務フロー）の詳細作成を行いITコーディネータと一緒に検討し問題点を引き出した。
2. 問題点を解決するためには経理システムを入れ替え、かつ、碎石販売業務や産業廃棄物処理のマニフェスト処理を一括して行うシステムを構築する必要があると判断しRFPを作成した。
3. この時同時にシステム提案時の評価尺度としての評価基準書も作成しておいた。これは当社の評価軸のブレを無くすことに繋がった。
4. ベンダー説明会を実施後、ベンダーからの構築システム提案書を受領し提案会社全てから提案内容について詳細な説明を受けた。
5. 評価基準に基づいて評価を実施し、当社の実施すべき事項に一番ふさわしいシステムを提案した会社1社を決定した。
6. 1～5のステップを辿ることにより、ベンダー主導の導入ではなく、当社の意思による最適なシステムが導入できた。

活用した公的施策や表彰等

- ・財団法人鳥取県産業振興機構 経営革新アドバイザー
- ・独立行政法人中小企業基盤整備機構 IT推進アドバイザー
- ・2008年 IT経営実践企業 認定（経済産業省）



■ 上田 治城

ITコーディネータ
認定番号:0012752001C
有限会社 オフィスFQC
E-Mail haruki.ueda@nifty.com

<キャッチフレーズ>

・島根県・鳥取県の企業を中心に多数の指導実績があります
・皆様と一緒にあった参画型のコンサルティングを行っています